

# 戦争と子どもたち 学童疎開

宮古島市総合博物館

和十九)年の五月から十二月までに陸・海軍合わせて三万人もの兵力が配備されました。

## 「学童疎開」の決定 一九四四年七月、サイパン島での戦いに

敗れた日本は、緊急閣議を開き、南西諸島の老幼婦女子約十万人を疎開させることを決定し、沖縄県は軍との協議で学童疎開を早急に進めていくことを決定します。その後、各国民学校(現小学校)の校長宛に「沖縄県学童疎開準備要項」を発令しました。

## 学童疎開とは 「疎開」とは

『広辞苑 第七版』によれば「空襲・火災などの被害を少なくするため、集中している人口や建造物などを分散すること」で、親戚や知人を頼ってする縁故疎開、集団でする集団疎開、建物などの建物疎開などがありました。学童疎開は、学校単位で行う集団疎開のため「学童集団疎開」ともいわれます。子どもたちは、家族のもとを離れ、引率の先生と一緒に疎開地へ行き、そこでその地域の学校に通いました。



沖縄県学童疎開者名簿

▶「沖縄県学童疎開者名簿」  
那覇市発行

## 宮古での動き 「沖縄県学童疎開準備要項」を受け取った各

国民学校の校長は、先生たちを総動員して学童疎開に参加するよう保護者に説得するため、生徒の家庭訪問等を始めます。その結果、平良第一、平良第二(現北)、下地の三つの国民学校から約八〇人の参加者が集まりました。初等科一年生(現小学校一年生)から高等科二年生(現中学二年生)までの子どもたちが、引率の先生(平良第一は高里好之助先生、平良第二は下地明増先生、下地は川満一先生)と一緒に宮古を離れ宮古島の小林町へ学童疎開をしました。

## はじめに 今からちょうど八〇

年前の一九四四(昭和十九)年八月、宮古の子どもたちが宮古島小林町(現小林市)に学童疎開をしたことをご存知でしょうか。現在、学校で行われている平和教育の中では、沖縄本島で繰り広げられた地上戦をはじめ、宮古で連日空襲が行われたことや艦砲射撃があったこと、マラリアや深刻な食糧不足で多くの命が失われたことなどは比較的よく伝えられ、紹介されていることだと思えます。しかし、学童疎開について、特に宮古の子どもたちについては意外と知られていないのではないのでしょうか。ここでは、そんな学童疎開について少し紹介させていただきます。

## 南西諸島での守備強化 連

合軍の反撃が強まり、南西諸島に進攻してくる可能性が高いと判断した政府は、南西諸島の守備を強化するために大本営直轄の第三十二軍を編成し、各所へ次々と戦闘部隊を編入し増強させていきました。宮古には、一九四四(昭

## 宮崎県小林町 一九四四年

当時、宮崎県小林町の人口は約三万人でした。町は霧島連山や九州山地の山々に囲まれ、森林や高原、畑や田んぼが広がり水がとて豊富で自然豊かでのどかな場所でした。そのため、宮古を離れる前から日本軍の来島、学校の接収や、飛行場建設、陣地構築の手伝いなどで授業どころではなかった子どもたちにとって、初めて訪れた小林町は

## 新たな土地での生活 学童

疎開をした方々の体験を象徴する言葉として「ヤーサン、ヒーサン、シカラーサン」という言葉をよく目にし、耳にします。沖縄本島の方言で「ひもじい、寒い、寂しい」を表す言葉だそうです。宮古の子どもたちの小林での生活も、同じようなものだったようです。また、戦況が悪化し、手紙のやり取りなども難しくなっていく中、一九四五(昭和二〇)年の四月には、沖縄本島に米軍が上陸し、それを知った子どもたちの、島や家族を心配する気持ちは想像に堪えません。

## 終戦と「本当の終戦」 宮古

の子どもたちが小林に来て一年を迎えた一九四五年八月十五日、日本はポツダム宣言を無条件で受け入れ、太平洋戦争が終わりました。しかし、子どもたちは

## すぐに宮古に戻れずに自給自足の生活が始まります。そこから

さらに半年が経過した一九四六(昭和二十一年)二月、宮古への引揚げが決まり、学童疎開をしていた先生や子どもたちはようやく本場の意味での終戦を迎えることができました。

## おわりに 簡単ではあります

が、学童疎開についてご紹介していきます。八十年前に起こった実際のお話です。今日のような世の中だからこそ、ぜひご家族、ご友人と一緒に学童疎開について知り、「平和とは何か」を考え語り合う時間を作っていただきたいと思えます。

\*\*\*\*\*

宮古島市総合博物館では、令和3年度に紙芝居「戦争と子どもたち」学童そかい」を作成いたしました。また、先月十六日から今月末まで学童疎開をテーマにした平和展(詳細は十一頁に掲載)も開催しております。紙芝居を読むこともできますので、ぜひ足を運んでいただきたいと思えます。よろしくお願いたします。



当時の小学校の講堂だった  
◀「みどり会館」

## 「戦時中に学童疎開された方、

または関係者の方へ」

宮古島市では、太平洋戦争当時、島外へ学童疎開された方の情報を求めています。

本人に限らず、家族、友人でも構いませんので、情報提供いただける方は、秘書広報課までご連絡ください。

☎72-3750



▶博物館紙芝居「戦争と子どもたち」学童そかい」表紙